

豊中市立第十五中
学校だより
一期一会



**世界や社会に関心を持ち、
まぶさあわせて37日間の夏休み**



→ 6/11 3年修学旅行チームビルディング
仲間との絆を深め、素晴らしい体験となりました

【戦後80年について】

日本において、第二次世界大戦以前に生まれた人口は約1500万人。総人口に対する割合は12%ほどです。当時幼かった方ははつきりとした記憶がないでしょうから、戦争体験の記憶がある方はこの数よりもっと少なく、高齢化も進んでいます。

戦争を語り継ぎ、次の世代へバトンタッチする取組みが各地で行われていますが、その大切さを感じるこの頃です。世界には、内戦や戦争が行われている地域、いつ戦争が始まってもおかしくないような緊張の高まる国や地域もあります。

ニュースで目にするミサイル着弾による被害の生々しい映像からは、被害者はいつも何の罪もない市民なのだと思えてきたままに気持ちになります。無関心でなく、戦争は止まないときあらめてしまうので

※2023年総務省統計局

はなく、一人ひとりが声をあげていくその力が戦争抑止につながると思います。「平和をつなぐ」のは他人事ではなく、私もその一人なのだと思え、終戦80年目の夏を迎えたいと思っています。



【実際の体験を大切に】

校長から生徒のみなさんに「広く世界や社会の出来事について目を向けること」を夏の宿題として提案します。

地球環境問題、戦争、貧困、多様性、少子高齢化社会……世界や日本での出来事に関心を持ちましょう（夏の宿題にはこれらに関する課題があるかもしれません）。また、もう少し身近な、私たちの住む地域の状況や課題にも目を向けていきましょう。

部活動などのスポーツ・芸術の体験活動は、地域や社会とつながっています。お祭りなどの地域行事には、地域を良くするというねらいが必ずあるはずですよ。

夏休みは実体験から考え、実感できるチャンスです。

【7/7 3年進路講話】

10人（大学生5人、高校生5人）の十五中卒業生をゲストに迎えました。先輩の姿、話から、気づきや共感があったのではないのでしょうか。

学力、校風、部活動、授業内容、卒業後の進路は、進路を決める上での大きな要素です。どの学校に進むかということはもちろん、何を身につけるのか、どういう大人になりたいのかも大事です。

10年後、20年後にこうありたいという自分自身の姿も考え、自らの生き方をデザインしていきましょう。

【図書館にGO!!】

みなさん、この1学期、本との出会いはありましたか。さまざまな実体験や人との出会いととも、1冊の本との出会いは世界を広げ、人生を豊かにしてくれます。

先週配布の「いちご図書館だより（7月）」に夏休み貸し出し（ひとり10冊まで）と新刊本のお知らせがありました。読書好きはもちろん、読まず嫌いな人も、この機会に図書館に立ち寄ってみてください。

素敵な1冊との出会いが夏を充実させてくれます。



Special Thanks



- 5月：篠原嘉一さん（情報モラルのお話）
 - 6月：曹英生（そうえいせい）さん（南京町のお話）
 - 6月：石井求依先生（国際理解のお話）
 - 6月：ひるがの高原・飛騨高山のみなさま、添乗員さんカメラマンさん（3年修学旅行）
 - 6月：竹田校長先生、福永教頭先生（園芸高）森口校長先生（千里青雲高）（3年進路学習）
 - 6月：芦田康宏先生（学校薬剤師：1年喫煙防止教育）
 - 7月：ガンバ大阪のみなさま（1.2年Gスマイル授業）
 - 7月：十五中卒業生のみなさま（3年進路学習）
 - 4月～：健全育成会のみなさま（あいさつ運動）
- ……1学期、多くの方々にお世話になりました。
十五中生との素敵な出会いに心より感謝を申し上げ、今後のみなさま方のご活躍を祈念いたします。